

## 平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

① 事業者名	株式会社フォルテ	② 連携する事業者 (DMO等)	青森県文化財保護課					
③ 事業名称	JOMON GREAT JOURNEY～日本人になった先祖の旅～							
④ 対象文化財	特別史跡三内丸山遺跡, 史跡小牧野遺跡							
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	位置情報と連動した文化財解説アプリの作成							
⑥ 制作言語	英語							
⑦ 設置場所	アプリストア(観光客によるダウンロードを想定)							
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況								
本事業で発信した国指定等文化財に 来訪した外国人観光客数【必須指標】	4,000人	【当初値】 30年度	1人	【目標値】 2年度	5,000人	→	元年度 達成状況	0
当該数値の把握手法	アプリダウンロード実績による人数・人種の把握							
本事業で発信した国指定等文化財に 来訪した外国人観光客数【必須指標】		【当初値】 30年度		【目標値】 年度		→	元年度 達成状況	
当該数値の把握手法								
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。								
<p>現地の文化財管理者と提供・周知方法について協議したが、サービス有償化について課題があり、取り急ぎ無償提供での調整を検討した。 結果として、管内への当該アプリ用QRコード設置、アプリ紹介チラシの設置等を行った。</p>								
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。								
<p>管理者によるアプリ紹介の稼働確保が課題となり、周知について実施に至ることができず、アプリダウンロードの実績がつかなかった。また、新型コロナウイルスの影響で協議自体が中断してしまった。 今後の見通しとしては、当該アプリの周知方法と既存の説明ツールとの差別化について協議再開を打診し、一定数のダウンロード実績を達成した時点で有料化を検討する。</p>								
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途								
1	収入	なし	—	用途	—			

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。（なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。）】

## 平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

① 事業者名	一般社団法人先端イメージング工学研究所	② 連携する事業者 (DMO等)					
③ 事業名称	地域連携型文化財高精細MR鑑賞コンテンツ化事業						
④ 対象文化財	岩手県内の国指定文化財(下記1～8のいずれか) 1.中尊寺/2.毛越寺/3.観自在王院跡/4.無量光院跡/5.柳之御所遺跡/6.達谷窟/7.骨寺村荘園遺跡/8.小岩井農場						
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	岩手県・平泉地域を魅力的に解説するため、案内板とパンフレットに設置したQRコードと連携し、VR技術を活用したコンテンツに英語、中国語、韓国語による解説を盛り込んだWebサイト(VRコンテンツ)を制作。						
⑥ 制作言語	日本語・英語・中国語・韓国語						
⑦ 設置場所	平泉文化遺産センター・毛越寺・観自在王院跡・無量光院跡・柳之御所遺跡・達谷窟・骨寺村荘園						
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況							
本事業で発信した国指定等文化財に 来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	59,991	【目標値】 元年度	71,989	→	元年度 達成状況	71,089
当該数値の把握手法	R2年コロナ影響を考慮し、目標値について年度末ごとに次年度の目標値を立て、その達成状況を計測。 平泉地域:平泉町観光商工課・骨寺村荘園室より情報提供/小岩井農場:小岩井農牧(株)経営企画室より情報提供 (詳細:別シート「⑧ 指標数値」参照)						
本事業で発信した国指定等文化財に 来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】	【当初値】 30年度	60%	【目標値】 元年度	70%	→	元年度 達成状況	74%
当該数値の把握手法	Webサイトに実装した、対象文化財に関するアクセス数の分析より、合計数が目標数に達しているかを算出 (詳細:別シート「⑧ 指標数値」参照)						
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。				<p>本事業により平成30年度に対象の案内板にVRコンテンツと連携したQRコードを整備したのち、岩手県庁と平泉文化遺産センターの助言のもと、平泉観光センターの施設や平泉文化遺産センターにもQRコード記載のパンフレットを置くことができた。夏にはE3Dmap(VRコンテンツ)も改善し、更新した。また、対象文化財の所有者への本事業の報告会(岩手アイーナにて)を行い、プロモーション活動を行なった。随時、数に変化が現れている。また、Nihongo Center (Japanese Language School)にご協力いただき、実施効果についてアンケート調査を行い、評価を得ることができた。(元年度の調査について参考資料Dを参照)</p>			
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。				<p>現在(令和2年春)、新型コロナウイルス影響により令和2年3月前後から数値自体は、効果を示すものにはなっていない。次年度以降の効果をどのように計測していくかが課題であるため、検討していく。また、次年度以降も引き続き対象文化財の所有者にご協力いただいて維持管理を行い、周知方法を検討し、拝観者や観光客の取り込みに努めていきたい。 また、本事業の実施効果についてアンケート調査を行う取り組みを検討していく。(元年度の調査について参考資料Dを参照)</p>			
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途							
1	収入	なし	—	用途	—		

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。(なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。)】

## 平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

① 事業者名	社寺観光地域連携協議会	② 連携する事業者 (DMO等)						
③ 事業名称	かざして社寺の魅力を多言語で解説(宮城県)							
④ 対象文化財	鹽竈神社							
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	専用アプリを必要とせず、スマートフォンをNFCタグにかざすだけで多言語(英語・日本語)での情報を取得できる							
⑥ 制作言語	英語、日本語							
⑦ 設置場所	鹽竈神社境内の既存看板等6箇所(位置図を添付)							
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況								
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	32008人	【目標値】 4年度	33263	→	元年度 達成状 況	33291	人
当該数値の把握手法	鹽竈神社へのヒアリングより算出※外国人観光客数のデータがございません							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】	【当初値】 30年度	65%	【目標値】 4年度	85%	→	元年度 達成状 況	53.8	%
当該数値の把握手法	一番アクセス数(英語ページ中)のあった設置場所のアクセス数の中でいいねを選択した方の割合							
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法(プロモーション)などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。				一般社団法人全日本社寺観光連盟との連携のもと、社寺向け機関紙「寺社NOWvol.27」への記事掲載(隔月3万部発行)				
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。				当該文化財のみならず、他文化財と連携したプロモーションを検討し、観光客の取り込みに努めていきたい				
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途								
1	収入	なし	-	用途	-			

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。(なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。)】

**【平成30年度採択事業】 文化財多言語解説整備事業 令和元年度分成果報告書**

<b>① 事業者名</b>	日光山 輪王寺	<b>② 連携する事業者 (DMO等)</b>						
<b>③ 事業名称</b>	日光山 輪王寺 文化財多言語解説整備事業							
<b>④ 対象文化財</b>	史跡、名勝、建造物							
<b>⑤ 先進コンテンツ</b> ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	日光山の歴史と信仰文化の魅力を伝えるため、既存の解説看板を全面的に刷新し、QRコードを付し、来訪者が所持するスマートフォンなどの携帯端末の設定言語に対応するため、専用サイトとサーバーを設置した。							
<b>⑥ 制作言語</b>	日本語、英語							
<b>⑦ 設置場所</b>	史跡「日光山内」(含、国宝・重要文化財建造物建造物)、名勝「千手ヶ浜」、重要文化財「千手観世音菩薩立像」(中禅寺立木観音境内)に案内板を設置。(位置図添付)							
<b>⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況</b>								
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】		【当初値】 30年度	33万人	【目標値】 4年度	45万人	→	元年度 達成状況	35万人
当該数値の把握手法	拝観者数からの按分で算出							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】		【当初値】 30年度	70	【目標値】 4年度	80	→	元年度 達成状況	70
当該数値の把握手法	グーグルアナリティクスによりQRコードによる多言語解説看板の閲覧数を把握するとともに、実地で外国人の多言語解説看板の閲覧状況を観察した結果、外国語解説が全く無かった以前よりも外国人参拝者の入場者数が増えている。							
<b>⑨ 整備媒体の元年度利用状況等</b>								
※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。								
<p>これまで外国人拝観者の少なかった日本庭園や宝物殿も、入り口近くに新設した多言語解説看板を見て興味を持ち、入場する人数が明らかに増えている。英文が書かれているだけでも目を引く効果があるように思われる。本年度は、前年度に引き続き要所に多言語解説版を追加設置し、さらに拝観受付所や多言語解説看板の要所に多言語対応の解説設備であることを表示するなど「多言語対応の解説設備」であることが一目で分かるような工夫を加えて利用率向上のための作を施し、満足度向上に努めた。</p>								
<b>⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し</b>								
※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。								
<p>次年度以降は、当年度において対象とならなかった物件についての多言語解説看板を補填拡充し、言語についても日・英以外の中繁・中簡・韓・仏・独・西・タイの合計9言語に対応することを目標としたい。また、拝観受付所や多言語解説看板の要所要所の多言語解説看板に「対応言語の国旗のイラスト」を追加するなど、「多言語解説対応」であることが一目で分かるような工夫を加えて、日光山の歴史文化の魅力を訴求することで、外国人参拝者の満足度向上に寄与したい。</p>								
<b>⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途</b>								
1	収入					用途		

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。（なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。）】

## 【平成30年度採択事業】 文化財多言語解説整備事業 令和元年度分成果報告書

① 事業者名	日光二荒山神社	② 連携する事業者 (DMO等)					
③ 事業名称	日光二荒山神社 文化財多言語解説整備事業						
④ 対象文化財	日光山内の建造物群						
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	Uni-Voice(ユニボイス)						
⑥ 制作言語	英語・繁体字中国語・簡体字中国語・タイ語						
⑦ 設置場所	日光市山内 二荒山神社境内地内						
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	2.5万人	【目標値】 5年度	4.2万人	→	元年度 達成状況	3.0万人
当該数値の把握手法	神橋・神苑の外国人有料拝観者数をカウント等実施						
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】	【当初値】 30年度	-	【目標値】 5年度	80%	→	元年度 達成状況	60%
当該数値の把握手法	境内にて外国人への個別調査実施（別紙参照）						
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。				Uni-Voice(ユニボイス)はJAVIS(日本視覚障がい情報普及支援協会)が開発した、携帯電話やスマートフォン(アプリ)に対応した音声コードです。音声コードを読み込むと画面に文字情報を掲載することもできる。境内でチラシの配布等を配布して周知を実施した。			
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。							
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途							
1	収入	なし		用途			

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。（なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。）】

【平成30年度採択事業】 文化財多言語解説整備事業 令和元年度分成果報告書

① 事業者名	株式会社 メディアエンジニアリング	② 連携する事業者 (DMO等)	一般社団法人 江戸東京研究所				
③ 事業名称	「江戸東京ガイドAPP」制作事業と連携したAR制作事業						
④ 対象文化財	①皇居東御苑(江戸城本丸跡) ②日本橋 ③小石川後楽園 ④国立西洋美術館の4か所						
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	上記4史跡の目視範囲で、GPSを感知しARが起動、史跡の過去、未来ビジョン、コンセプト、魅力などをVRによって解説する。日本語、英語の切り替え。DLは「江戸東京研究所」のHPより行う。						
⑥ 制作言語	日本語 英語						
⑦ 設置場所	観光客の手持ちのスマートフォン等(ほぼ全員)に「バーチャル東京」をダウンロード(無料)していただき、各史跡に焦点を合わせて操作。 https://www.edo-tokyo.jp/vrtokyo/などよりDL。						
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 平成30年度	各史跡ごにまち まちのため数字は 不明	【目標値】 4年度	不明	→	元年度 達成状況	未定
当該数値の把握手法	各史跡の公表入場者(日本橋は不明)によって把握。						
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】	【当初値】 30年度		【目標値】 4年度	未定	→	元年度 達成状況	未定
当該数値の把握手法	①史跡への注目度調査はアプリの滞留時間調査 ②アプリコンテンツに付属している「顔はめパネル」(写真撮影)、「投稿コーナー」(メール)「レビューコーナー」などから満足度の推論 ③ダウンロード数調査などの機能を付加すること。一部未完了。						
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法(プロモーション)などととも、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。							
本事業により平成30年度にアプリを整備し、令和元年に「一般社団法人 江戸東京研究所」を設立。来訪(東京)観光客向けに、アップル、アンドロイドのプラットフォームを中心公開し拡販に努める。また、アメリカの出版大手タトル社(英文『Tokyo -29Walks』など人気ガイドを出版)と折衝してプロモーション計画を打診。これには、アメリカ人のパートナーが活躍。販促の基盤づくりを行う。							
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っていくのかを記載してください。							
次年度以降も引き続き「江戸東京研究所」を中心とし、東京への観光客向けにプロモーションを強化させる。各史跡の管理者(公共、観光協会など)に協力を呼び掛け、アップル、アンドロイドの利用促進を図る。また、同時に日米共同編集の「東京ガイド」アプリ、浮世絵アプリなどのマーチャンダイジングとマーケティングにより、その相乗効果を計る計画に取り組む。これらの諸策及び研究者の交流により、江戸東京ファンを海外に形成する(特に英語圏)インフラづくりに注力する。							
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその使途							
1	収入	なし		使途	今後のアプリのバージョンアップを目指して、協力要請のプレゼンテーション費用。		

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。(なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。)]

**【平成30年度採択事業】 文化財多言語解説整備事業 令和元年度分成果報告書**

<b>① 事業者名</b>	デジタルハリウッド大学	<b>② 連携する事業者 (DMO等)</b>						
<b>③ 事業名称</b>	多言語を用いた音楽制作による異文化理解の研究 (Lingphony Project)							
<b>④ 対象文化財</b>	登録有形文化財 神田明神							
<b>⑤ 先進コンテンツ</b> ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	登録有形文化財 神田明神が日本文化を世界に向け発信する重要性を魅力的に解説するため、日本語、ロシア語、イタリア語、中国語、アラビア語、インドネシア語、フランス語、英語、韓国語、ポルトガル語、ドイツ語、タイ語、ベトナム語、スペイン語を使用した動画を2点制作。1点は複数言語をハーモニーとして異文化の調和を表し、また現地映像を加え具体イメージの強化をしている。もう1点は、複数言語をVR音響で表現することで異文化の関係性を伝えている。案内板に設置した看板では日本語と英語表記を用い、VR音響コンテンツとURLで連携している。また、現地にて本コンテンツを用いた対面コミュニケーションを行い、アンケートにて満足度を測定している。							
<b>⑥ 制作言語</b>	動画コンテンツ内: 日本語、ロシア語、イタリア語、中国語、アラビア語、インドネシア語、フランス語、英語、韓国語、ポルトガル語、ドイツ語、タイ語、ベトナム語、スペイン語 案内看板: 日本語、英語							
<b>⑦ 設置場所</b>	登録有形文化財 神田明神 文化交流館1F							
<b>⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況</b>								
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数 【必須指標】		【当初値】 30年度	20,000 人	【目標値】 年度		→	元年度 達成状況	112名
当該数値の把握手法	登録有形文化財 神田明神 文化交流館1Fにて対面カウント。次年度以降の目標値についてはCOVID-19の状況を見ながら検討。							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度		【当初値】 30年度	—	【目標値】 年度		→	元年度 達成状況	76%
当該数値の把握手法	登録有形文化財 神田明神 文化交流館1Fにて実施したアンケートカウント。次年度以降の目標値についてはCOVID-19の状況を見ながら検討。							
<b>⑨ 整備媒体の元年度利用状況等</b>				※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。				
本事業により平成30年度に媒体を整備したところであるが、登録有形文化財 神田明神との連携のもと、同敷地内にある文化交流館に案内板とコンテンツを設置させていただいた。また、デジタルハリウッド株式会社のリリースに掲載、デジタルハリウッド大学の研究紀要「DHU JOURNAL2019」に掲載、デジタルハリウッド入学式「デジタルフロンティア2019」での趣旨説明とコンテンツ上映(来場者700名程度)を行った。これらにより、少しづつ効果が出始めたものと考えられる。今年もリニューアルコンテンツを制作し同施設内に設置予定であるが、COVID-19の状況を見ながらの進捗となっている。								
<b>⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し</b>				※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っていくのかを記載してください。				
次年度以降も引き続き登録有形文化財 神田明神と連携して、当該文化財のみならず、周辺地域の観光資源と組み合わせたプロモーションを検討し、観光客の取り込みに努めていきたい。								
<b>⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその使途</b>								
1	収入	なし	—				使途	

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。（なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。）】

平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

<b>① 事業者名</b>	株式会社IMAGICA Lab.	<b>② 連携する事業者 (DMO等)</b>	佐渡市役所 観光観光振興課					
<b>③ 事業名称</b>	高精細VRによる佐渡島文化財の多言語解説整備事業							
<b>④ 対象文化財</b>	佐渡海府海岸、佐渡小木海岸、平根崎の波蝕罅穴群、旧佐渡鉱山採鉱施設、佐渡金銀山遺跡、佐渡の人形芝居(文弥人形・説経人形・のろまん形)、小木のたらい舟製造技術、トキ、佐渡市宿根木伝統的建造物群保存地区							
<b>⑤ 先進コンテンツ</b> ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	海外からの旅行者に地域の魅力をアピールするため、VR技術を活用して、多言語解説と共に複数の文化財をバーチャル体験出来るコンテンツを制作。島内の主要施設にヘッドマウントディスプレイを整備、さらに各文化財に訪れた際に解説を行うGPS連動のVRアプリも制作した。							
<b>⑥ 制作言語</b>	日本語、英語、中国語							
<b>⑦ 設置場所</b>	佐渡汽船新潟港ターミナル総合案内所、両津港佐渡観光案内所、「あいぼーと佐渡」、相川観光案内所、南佐渡観光案内所、新徳歴史民俗資料館、佐渡博物館、史跡「佐渡金山」、相川郷土博物館、尖閣湾「揚島遊園」、小木民俗博物館、トキの森公園							
<b>⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況</b>								
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】		【当初値】 30年度	-	【目標値】 5年度	60,000人	→	元年度 達成状況	6,565人
当該数値の把握手法	佐渡汽船を利用して入島した訪日外国人数を集計。							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】		【当初値】 30年度	-	【目標値】 5年度	90%	→	元年度 達成状況	95%
当該数値の把握手法	VRコンテンツ体験後に記入していただくアンケート結果を集計。							
<b>⑨ 整備媒体の元年度利用状況等</b>								
※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。								
本事業の概要を記したポスターやパンフレットを各VR設置場所に置き、来場者の目に留まるようにした。日本語の他に英語や中国語(繁体字・簡体字)でコンテンツを制作したが、体験者の多くは日本人であったため(別紙「アンケート集計結果」参照)、海外での観光プロモーションイベントでVRコンテンツを披露したほか、英語版のみYouTubeで公開し、全国の人々がコンテンツ体験ができるような施策をした。								
<b>⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し</b>								
※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っていくのかを記載してください。								
今年度はコロナの影響により外国人の来島があまり多く見込めないため、ダイジェスト版のVR映像(日、英、中)を佐渡の観光系のwebページから動画を閲覧できるようにし、コロナが収束した後に来島者の数を増やすような施策を実施する。								
<b>⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途</b>								
1	収入		なし	用途			-	



## 平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

① 事業者名	社寺観光地域連携協議会	② 連携する事業者 (DMO等)						
③ 事業名称	かざして社寺の魅力を多言語で解説(静岡)							
④ 対象文化財	久能山東照宮							
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	専用アプリを必要とせず、スマートフォンをNFCタグにかざすだけで多言語(英語・日本語)での情報を取得できる							
⑥ 制作言語	英語、日本語							
⑦ 設置場所	久能山東照宮境内の既存看板等6箇所(位置図を添付)							
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況								
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	41820人	【目標値】 4年度	43460人	→	元年度 達成状 況	40000	人
当該数値の把握手法	久能山東照宮へのヒアリングより算出※外国人観光客数のデータがございません							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】	【当初値】 30年度	65%	【目標値】 4年度	85%	→	元年度 達成状 況	10.4	%
当該数値の把握手法	一番アクセス数(英語ページ中)のあった設置場所のアクセス数の中でいいねを選択した方の割合							
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法(プロモーション)などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。				一般社団法人全日本社寺観光連盟との連携のもと、社寺向け機関紙「社寺NOWvol.27」への記事掲載(隔月3万部発行)				
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。				当該文化財のみならず、他文化財と連携したプロモーションを検討し、観光客の取り込みに努めていきたい				
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途								
1	収入	なし	-	用途	-			

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。(なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。)】

## 平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

① 事業者名	グランドライフ株式会社	② 連携する事業者 (DMO等)					
③ 事業名称	南知多の重要文化財を中心にした観光アプリコンテンツ整備事業						
④ 対象文化財	尾州廻船内海船主 内田佐七家						
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	VR						
⑥ 制作言語	日本語・英語・インドネシア語・ベトナム語・イタリア語						
⑦ 設置場所	尾州廻船内海船船主 内田佐七家						
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	10人	【目標値】 令和4年度	2000人	→	元年度 達成状況	15人
当該数値の把握手法	重要文化財尾州廻船内海船船主内田佐七家の案内人が使用者人数をカウント						
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】	【当初値】 30年度	—	【目標値】 年度	80%	→	元年度 達成状況	80%
当該数値の把握手法	使用者が実施したアンケートからデータ収集						
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。							
本事業により平成30年度に媒体を整備したところであるが、南知多町教育委員会との連携のもと、尾州廻船内海船船主 内田佐七家に看板を置かせていただいた。また、弊社HPやSNSにて本事業のPRを実施したが南知多町の外国人観光客が減少している背景があり、集客が難しい現状である。							
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っていくのかを記載してください。							
次年度以降は南知多町教育委員会との連携を強化し、周辺地域の観光資源と組み合わせたプロモーションを検討し、観光客の取り込みに努めていきたい。							
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその使途							
1	収入	なし	—	使途			

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。（なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。）】

## 平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

① 事業者名	名古屋市 観光文化交流局 名古屋城総合事務所	② 連携する事業者 (DMO等)						
③ 事業名称	名古屋城外国人観光客向け情報発信事業							
④ 対象文化財	【特別史跡 名古屋城跡】【重要文化財 本丸御殿内の障壁画】							
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	本丸御殿の案内版に二次元コードを付加し、リーフレット、ウェブが連動する仕組みを構築し、本丸御殿の障壁画(重要文化財の復元模写)等を解説するコンテンツ(英語版)を新設した。							
⑥ 制作言語	英語							
⑦ 設置場所	名古屋城 本丸御殿							
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況								
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】		【当初値】 30年度	30万	【目標値】 4年度	32万人	→	元年度 達成状況	35万 6,000人
当該数値の把握手法	名古屋城の発券改札場での担当者による目視。							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】		【当初値】 30年度	71%	【目標値】 4年度	79%	→	元年度 達成状況	66.7%
当該数値の把握手法	名古屋城本丸御殿の出入り口にて、タッチパネル(iPad)を使用してアンケート調査を実施。							
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法(プロモーション)などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。								
平成30年度の文化財多言語解説整備事業において、訪日外国人観光客に名古屋城の魅力を訴求できる情報コンテンツとして、本丸御殿の案内版に二次元コードを付加し、リーフレット、ウェブが連動する仕組みを構築し、本丸御殿の障壁画(重要文化財の復元模写)等を解説するコンテンツ(英語版)を新設した。SNSをはじめとするバイラル情報のさらなる強化を図った。日本語以外のWebページについては、ユーザー数とページビュー数ともにアクセス数は上昇傾向にある。								
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。								
令和元年度には、アジアからの訪日外国人観光客の増加に伴いより満足度を高めるとともに、名古屋城の価値への理解を深めてもらうために多言語(繁体字、簡体字、ハングル)によるコンテンツ展開を行った。また混雑時などでも容易に諸室の解説案内を得ることができるため、本丸御殿の本質的な理解を深めることができ、名古屋城来場の満足度を高めることが期待される。昨年度の満足度調査を基に、『より深い知識を知りたい』『多言語での短い音声説明』といった要望に応じていく取組を検討している。								
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその使途								
1	収入	なし		使途				

平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

<b>① 事業者名</b>	京都・南山城古寺等文化財普及推進協議会	<b>② 連携する事業者 (DMO等)</b>	お茶の京都DMO					
<b>③ 事業名称</b>	QRコードを利用した「南山城古寺巡礼」スマホ対応ホームページ整備事業							
<b>④ 対象文化財</b>	浄瑠璃寺国宝本堂・三重塔・九体阿弥陀如来坐像・四天王像・蟹満寺国宝釈迦如来坐像・観音寺国宝十一面観音立像・海住山寺国宝五重塔など							
<b>⑤ 先進コンテンツ</b> ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	英語版HPの作成・英語版解説板の設置(QRコード付)・英語版パンフレット作成							
<b>⑥ 制作言語</b>	英語							
<b>⑦ 設置場所</b>	各寺院の境内・対象文化財周辺							
<b>⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況</b>								
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】		【当初値】 30年度	【目標値】 元年度	10,000	→	元年度 達成状況	10,000	
当該数値の把握手法	各寺院の拝観受付担当の感触・HPへのアクセス件数							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】		【当初値】 30年度	—	【目標値】 元年度	70%	→	元年度 達成状況	70%
当該数値の把握手法	各寺院の拝観受付担当の感触・HPへのアクセス件数							
<b>⑨ 整備媒体の元年度利用状況等</b>				※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。				
京都・奈良の観光案内所・ホテル等への英語版パンフレットの配布・DMOなどの外国人集客PRに活用								
<b>⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し</b>				※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。				
初年度は英語版を作成、元年度は簡体字・繁体字版のHPを作成、今後加盟寺院の希望言語のHPの作成を検討								
<b>⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途</b>								
	収入	なし			用途			

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。（なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。）】

平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

<b>① 事業者名</b>	宗教法人 本能寺	<b>② 連携する事業者 (DMO等)</b>					
<b>③ 事業名称</b>	法華宗大本山本能寺 文化財多言語解説事業						
<b>④ 対象文化財</b>	本堂・山門・信長慰霊碑						
<b>⑤ 先進コンテンツ</b> ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	Twitterでの広報、宝物館でのタブレット貸出、QRコード						
<b>⑥ 制作言語</b>	英語						
<b>⑦ 設置場所</b>	アプリ(個人のスマートフォンから何処でも)、宝物館						
<b>⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況</b>							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	6000	【目標値】 令和5年度	11000	→	元年度 達成状況	7000
当該数値の把握手法	宝物館来場数および、本山外国語版パンフレット減少数						
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】	【当初値】 30年度	60	【目標値】 令和5年度	80%	→	元年度 達成状況	95%
当該数値の把握手法	宝物館でのアンケート実施						
<b>⑨ 整備媒体の元年度利用状況等</b> ※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。							
Twitterでの広報。境内地にQRコードの設置。宝物館でのタブレット無料貸出。アンケートによると、タブレットを借りられた方の満足度は高かった。							
<b>⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し</b> ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。							
コロナウイルス感染症対策として、タブレットのアルコール消毒や換気等によって安心して来館してもらえるようにする。							
<b>⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその使途</b>							
1	収入	なし	-	使途	-		

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。（なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。）】

平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

① 事業者名	一般社団法人先端イメージ工学研究所	② 連携する事業者 (DMO等)					
③ 事業名称	文化財3D鑑賞コンテンツ事業						
④ 対象文化財	京都府 総本山 仁和寺・大徳寺 聚光院の国指定文化財 <仁和寺>国宝:金堂/重要文化財:観音堂・五重塔/史跡:御室八十八ヶ所霊場 <聚光院>国宝:障壁画/重要文化財:茶室						
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	仁和寺と聚光院の文化財を魅力的に解説するため、案内板やポストカードに設置したQRコードと連携し、VR技術を活用したコンテンツに英語、中国語、韓国語による解説を盛り込んだWebサイト(VRコンテンツ)を制作。						
⑥ 制作言語	日本語・英語・中国語・韓国語						
⑦ 設置場所	仁和寺:案内看板(対象文化財建物ごと)/聚光院:玄関						
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	54,144	【目標値】 元年度	59,066	→	元年度 達成状況	75,000
当該数値の把握手法	全体拝観者数の約2割を外国人として見込みました。※ただし現場スタッフによると2020年3月以降、日本人参拝客も、外国人参拝客も激減しているということです。(詳細:別シート「⑧ 指標数値」参照)						
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】	【当初値】 30年度	60%	【目標値】 元年度	70%	→	元年度 達成状況	106%
当該数値の把握手法	Webサイトに実装した、対象文化財に関するアクセス数の分析より、合計数が目標数に達しているかを算出 (詳細:別シート「⑧ 指標数値」参照)						
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法(プロモーション)などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。							
<p>本事業により平成30年度に対象の案内板にVRコンテンツと連携したQRコードを整備したのち、それらのQRコード記載のパンフレットを設置した。そして、10月に開催された「ツーリズムEXPO 2019」の文化庁事務局のブースにて、本事業の紹介ポスターやパンフレットを設置させてもらうなどして、周知に努めた。また、プロモーション活動の一環として、京大桂ベンチャープラザやクリエイション・コア東大阪などの技術を持つ専門家が行き交う共有スペースに展示することで、本事業のアピールと周知を目指した。令和元年度には、仁和寺様ご自身が本事業を継続され、さらに拝観客数を伸ばしている。また、Nihongo Center (Japanese Language School)にご協力いただき、実施効果についてアンケート調査を行い、評価結果を得ることができた。(元年度の調査について参考資料Dを参照)</p>							
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っていくのかを記載してください。							
<p>現在(令和2年春)、新型コロナウイルス影響により令和2年3月前後から数値自体は、効果を示すものにはなっていない。次年度以降の効果等をどのように計測していくかが課題であるため、検討していく。また、次年度以降も引き続き対象文化財の所有者にご協力いただいて維持管理を行い、周知方法を検討し、拝観者や観光客の取り込みに努めていきたい。 また、本事業の実施効果についてアンケート調査を行う取り組みを検討していく。(元年度の調査について参考資料Dを参照)</p>							
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途							
1	収入	なし	—	用途	—		

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。(なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。)】

## 平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

① 事業者名	一般社団法人先端イメージング工学研究所	② 連携する事業者 (DMO等)					
③ 事業名称	地域連携型文化財高精細MR鑑賞コンテンツ化事業						
④ 対象文化財	大阪府 天野山 金剛寺の国指定文化財 国宝:「日月四季山水図」屏風/重要文化財:金堂・多宝塔・桜門・食堂/国王:延喜式 卷十四						
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	天野山 金剛寺の文化財を魅力的に解説するため、案内板に設置したQRコードと連携し、VR技術を活用したコンテンツに英語、中国語、韓国語による解説を盛り込んだWebサイト(VRコンテンツ)を制作。						
⑥ 制作言語	日本語・英語・中国語・韓国語						
⑦ 設置場所	天野山 金剛寺 案内看板(境内桜門近く)						
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況							
本事業で発信した国指定等文化財に 来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	2,534	【目標値】 元年度	2,787	→	元年度 達成状況	2,644
当該数値の把握手法	各年度ごとの拝観者数を、天野山金剛寺掘智真ご住職よりヒアリングし、全体数の2割を外国人と推定し、算出している。ただし、2020年3月は日本人・外国人ともにコロナの影響を受け激減しているため、3月の行楽シーズン集客は正確な推定とは言えない。 (詳細:別シート「⑧ 指標数値」参照)						
本事業で発信した国指定等文化財に 来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】	【当初値】 30年度	60%	【目標値】 元年度	70%	→	元年度 達成状況	102%
当該数値の把握手法	Webサイトに実装した、対象文化財に関するアクセス数の分析より、合計数が目標数に達しているかを算出 (詳細:別シート「⑧ 指標数値」参照)						
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法(プロモーション)などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。							
本事業により平成30年度に対象の案内板にVRコンテンツと連携したQRコードを整備したのち、通常非公開である「日月四季山水図」屏風を一時公開する際に、パンフレットの配布を強化しプロモーションに努めた。また、20月に開催された「ツーリズムEXPO 2019」の文化庁事務局のブースにて、本事業の紹介ポスターを設置させてもらうなどして、周知に努めた。 また、Nihongo Center (Japanese Language School)にご協力いただき、実施効果についてアンケート調査を行い、評価を得ることができた。(元年度の調査について参考資料Dを参照)							
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っていくのかを記載してください。							
現在(令和2年春)、新型コロナウイルス影響により令和2年3月前後から数値自体は、効果を示すものにはなっていない。次年度以降の効果等をどのように計測していくかが課題であるため、検討していく。また、次年度以降も引き続き対象文化財の所有者にご協力いただいで維持管理を行い、周知方法を検討し、拝観者や観光客の取り込みに努めていきたい。 また、本事業の実施効果についてアンケート調査を行う取り組みを検討していく。(元年度の調査について参考資料Dを参照)							
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途							
1	収入	なし	—	用途	—		

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。(なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。)]

## 【平成30年度採択事業】 文化財多言語解説整備事業 令和元年度分成果報告書

① 事業者名	一般財団法人奈良県ビ ジターズビューロー	② 連携する事業者 (DMO等)	一般財団法人奈良県ビ ジターズビューロー				
③ 事業名称	奈良市内における文化財多言語解説整備事業						
④ 対象文化財	春日大社、旧大乗院庭園						
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのた めのトリガーがあれば記載。	春日大社、旧大乗院庭園を魅力的に解説するために、凸版印刷株式会社の「ストリートミュージアム」をプラットフォームとした多言語解説アプリを制作した。GPS連携で現地に行くとき各スポットごとの解説を楽しめる機能や、かつて存在した春日西塔をVRで再現するコンテンツを組み込み、現地への誘客を促進するものとした。						
⑥ 制作言語	英語、日本語						
⑦ 設置場所	App Store、Google Play、春日大社・旧大乗院庭園の各スポット(GPS連携)						
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況							
本事業で発信した国指定等文化財に 来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	422,160	【目標値】 35年度	600,000	→	元年度 達成状況	530,880
当該数値の把握手法	奈良市外国人観光客数3,318,000人(奈良市観光入込客数調査報告書)に、RESAS観光施設検索回数で春日大社が占める割合16%を乗じた数字。※把握手法変更に伴い申請時の内容から修正している。						
本事業で発信した国指定等文化財に 来訪した外国人観光客の満足度 【必須指標】	【当初値】 30年度	70%	【目標値】 35年度	85%	→	元年度 達成状況	88%
当該数値の把握手法	Trip adviser englishの総レビュー数に占めるExcellentとVery goodの割合。						
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。				凸版印刷株式会社の「ストリートミュージアム」をプラットフォームとしていることから、他の「ストリートミュージアム」のコンテンツとともに凸版印刷株式会社によるプレスリリースを行った。また、現地にはQRコードを読み取ることでアプリのダウンロードができるリーフレットを設置している。しかし、リーフレットについては、リーフレット自体を観光パンフレットとして楽しんでいる様子はあるが、そこからアプリをダウンロードしている姿はあまり見られなかった。			
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。				アプリのダウンロードに時間がかかること、安定したwi-fi環境がないことから現地でアプリをダウンロードしている外国人観光客の姿は少なかった。アプリという性質上wi-fi環境が整っている旅前、もしくは宿泊先のホテルでのダウンロードが望ましいので、凸版印刷株式会社と連携した「ストリートミュージアム」のWEB上でのプロモーションや市内のホテルへのリーフレット配置に取り組む。			
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途							
1	収入	なし	-	用途	-		

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。（なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。）】



## 【平成30年度採択事業】 文化財多言語解説整備事業 令和元年度分成果報告書

① 事業者名	一般財団法人奈良県ビクターズビューロー	② 連携する事業者 (DMO等)	一般財団法人奈良県ビクターズビューロー				
③ 事業名称	奈良県中南和地域における文化財多言語解説整備事業						
④ 対象文化財	長谷寺、岡寺、室生寺、安倍文殊院						
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	長谷寺・岡寺・室生寺・安倍文殊院を魅力的に解説するため、多言語ガイドブックを制作した。ガイドブックのARマーカを読み取ることで、御本尊の3DCGやナレーション付きの紹介映像を楽しむことができる。						
⑥ 制作言語	英語、日本語						
⑦ 設置場所	長谷寺、岡寺、室生寺、安倍文殊院、ホテル、鉄道駅等						
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	3,500	【目標値】 35年度	7,000	→	元年度 達成状況	5,200
当該数値の把握手法	管轄市町村に確認。						
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】	【当初値】 30年度	—	【目標値】 35年度	85%	→	元年度 達成状況	96%
当該数値の把握手法	Trip adviser englishの総レビュー数に占めるExcellentとVery goodの割合。						
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。				令和元年度は長谷寺・岡寺・室生寺・安倍文殊院に加えて、近畿日本鉄道、JRの主要駅や Marriottホテル大阪、ウェスティン都ホテル京都等に本事業で制作した多言語ガイドブックを配置した。特に、6月～9月にかけて開催された、東京国立博物館の特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」に併せてガイドブックを配布し、文化財への誘客に努めた。また、JR奈良駅で2週間に渡って開催されたおおさか東線開通イベントにおいて、外国人観光客に対してガイドブックを用いたプロモーションを実施した。表紙のデザインが外国人観光客の興味を引きやすいものになっており、外国人観光客の反応も良い。			
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っていくのかを記載してください。				令和元年度は、外国人観光客が多く利用する大阪・京都の外資系ホテルや主要鉄道駅等様々な場所に多言語ガイドブックを配置できたことで、平成30年度を大きく上回る人数の外国人が整備文化財を訪れた。しかし、コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度は元年度を大きく下回る見通しである。ガイドブックの残部数については、長谷寺・室生寺・岡寺・安部文殊院と適宜協議しながら活用を図っていく。			
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途							
1	収入	なし	-	用途	-		

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。（なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。）】

平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

<b>① 事業者名</b>	株式会社クリーク・アンド・リバー社	<b>② 連携する事業者 (DMO等)</b>	(一社) 和歌山地域通訳案内士会					
<b>③ 事業名称</b>	外国人観光客のための「熊野古道」ガイド整備事業							
<b>④ 対象文化財</b>	熊野古道、熊野本宮大社、熊野速玉神社、熊野那智大社							
<b>⑤ 先進コンテンツ</b> ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	パンフレット、ポスターに掲載のQRコードを主なトリガーとし、ガイド映像・360度VR映像・マップ・解説などの紹介ページを英語で制作。スマホなどのモバイル端末、PCやタブレットなどにも対応。							
<b>⑥ 制作言語</b>	英語							
<b>⑦ 設置場所</b>	和歌山地域通訳案内士会が関連している案内施設							
<b>⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況</b>								
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】		【当初値】 30年度	38,000 人	【目標値】 元年度	42,000 人	→	元年度 達成状況	50,926 人
当該数値の把握手法	和歌山県観光振興課・観光交流課が行っている「観光客胴体調査」の田辺市の外国人宿泊客数の数値より。							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】		【当初値】 30年度	-	【目標値】 元年度	80%	→	元年度 達成状況	81.82%
当該数値の把握手法	WBE内に設置したSurvey (アンケート)での結果の集計。5段階の評価で行ってもらい、4以上を獲得した割合を満足度とする。							
<b>⑨ 整備媒体の元年度利用状況等</b> ※当該媒体の利用を促すための周知方法 (プロモーション) などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。								
コンテンツ制作でも協力いただいた(一社)和歌山地域通訳案内士会が積極的にプロモーションをかけてくれている。こちらの客層は主に欧米からの観光客となるが、パンフレットを配ってもらうなどとしている。								
<b>⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し</b> ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っていくのかを記載してください。								
アンケートの集計数はあまりよくないので、今後どうやってアンケートを集めていくかを考える必要がある。さらに、パンフレットやポスター掲示の場所も増やしていきたい。								
<b>⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその使途</b>								
1	収入	なし			使途			

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。(なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。)】

## 平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

① 事業者名	株式会社ハコスコ	② 連携する事業者 (DMO等)	なし					
③ 事業名称	世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」多言語VRコンテンツ制作事業							
④ 対象文化財	江上天主堂、旧五輪教会堂、頭ヶ島天主堂、黒島天主堂、大野教会堂、出津教会堂、大浦天主堂、旧野首教会							
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	<a href="https://store.hacosco.com/movies/5ce5ab25-4f66-4c98-920c-c8ef5e0b15dc">https://store.hacosco.com/movies/5ce5ab25-4f66-4c98-920c-c8ef5e0b15dc</a>							
⑥ 制作言語	日本語、英語、中国語							
⑦ 設置場所	webページ上で、スマートフォン、VRビューアーにより、VRコンテンツ視聴可能							
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況								
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】コンテンツ再生回数	【当初値】計測なし	【目標値】元年度	250人	【目標値】4年度	350人	→	元年度達成状況	254人
当該数値の把握手法	非日本語でのインターネット上のコンテンツ入り口のページ再生数をカウント。本事業のオンラインコンテンツは現地を訪れる観光客数を直接カウント出来ないため、その代替としてコンテンツ再生回数を利用している。							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】コンテンツ滞在時間	【当初値】計測なし	【目標値】元年度	100秒	【目標値】4年度	140秒	→	元年度達成状況	107秒
当該数値の把握手法	非日本語でのインターネット上のコンテンツの平均滞在時間をカウント。本事業のオンラインコンテンツは満足度を取得出来ないため、その代替としてコンテンツページの滞在時間を利用している。							
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。								
31年度から元年にかけて、JTBに依頼したハコスコパッケージの配布を行い配布は完了。その効果か、初年度に比べて訪問数は予定より増えている。引き続き、長崎県へ世界遺産のHPなどへコンテンツページへのリンクの埋め込みを依頼するなど、長崎県の文化財の部局のみならず、長崎県の観光課や観光協会との連携により、コンテンツへの訪問者数を増やしていく努力をしたい。								
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。								
上記の通り関係HPへの掲載依頼などを行って、コンテンツへのアクセス数を増やしていきたい。VRコンテンツは視聴者がVRだけでは満足出来ず、実際に現地を訪れたい気持ちになることが知られており、VR体験が誘客につながると考えられる。								
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途								
1	収入	0		用途				

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。（なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。）】

平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

①	事業者名	長崎県島原市	②	連携する事業者 (DMO等)				
③	事業名称	オメガコードを利用した多言語解説システム整備事業						
④	対象文化財	登録有形文化財8件(①旧島原藩薬園跡②鶴殿家住宅旧主屋③猪原金物店④宮崎商店店舗⑤清水家住宅主屋⑥保里川家住宅⑦青い理髪館⑧中野金物店主屋)						
⑤	先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	市内に点在する登録有形文化財を魅力的に解説するため、多機能2次元バーコードである「オメガコード」を活用。スマートフォン用アプリをダウンロードし、各施設に設置しているオメガコードを読み取ることでオフラインでも解説や写真を参照できる。解説文は日本語を始め10言語で作成。音声ガイドもあり、バリアフリーにも配慮している。						
⑥	制作言語	①日本語②英語③中国語④韓国語⑤フランス語⑥スペイン語⑦ポルトガル語⑧ロシア語⑨インドネシア語⑩アラビア語						
⑦	設置場所	8件の登録有形文化財それぞれにオメガコードを掲示したサインスタンドを設置						
⑧	設定した指標・目標と元年度の達成状況							
	本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	0	【目標値】 5年度	200	→	元年度 達成状況	50
	当該数値の把握手法	スマートフォンのダウンロード数に、代表的な施設におけるオメガコードを利用した外国人の割合を施設の管理人に聞き取り、ダウンロード数に乗じた。(50%)						
	本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】	【当初値】 30年度	N/A	【目標値】 年度	75%	→	元年度 達成状況	50%
	当該数値の把握手法	施設の管理人に聞き取り						
⑨	整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。							
	本事業により平成30年度に媒体を整備したところであるが、本市への観光客入込の拠点となる島原駅、島原外港に本媒体に関するチラシを置かせていただいた。当初の想定よりもアプリケーションのサイズが大きく(約100MB)、ダウンロードを躊躇したり、またオメガコードがうまく読み取れない場合がまま見られたとのことであり、今後の課題であると考えている。							
⑩	⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っていくのかを記載してください。							
	アプリケーションの開発元により使いやすくバージョンアップを要望するとともに、解説文や掲載写真の充実を図っていきたい。							
⑩	補助事業実施による令和元年度収入とその使途							
1	収入	なし		使途				

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。(なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。)】

## 平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

① 事業者名	対馬市	② 連携する事業者 (DMO等)	対馬市文化財観光活用協議会					
③ 事業名称	対馬市文化財観光アプリケーション整備事業							
④ 対象文化財	特別史跡金田城跡、史跡金石城跡、史跡清水山城跡、史跡対馬藩主宗家墓所、名勝旧金石城庭園、天然記念物洲藻白嶽原始林、史跡塔の首遺跡							
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	地理的条件によりオフラインでの見学を余儀なくされる特別史跡金田城跡などにおいて、現地説明板等に表示した先進2次元バーコード「オメガコード」を用いて、英語、韓国語等多言語によるナレーション解説を行う専用アプリケーションを制作。							
⑥ 制作言語	日本語、英語、韓国語、中国語(北京語)、フランス語、インドネシア語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語、アラビア語							
⑦ 設置場所	特別史跡金田城跡、史跡金石城跡、史跡清水山城跡、史跡対馬藩主宗家墓所、名勝旧金石城庭園、天然記念物洲藻白嶽原始林、史跡塔の首遺跡の各既設説明板にオメガコードとアプリダウンロード用QRコードを掲示。							
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況								
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客数【必須指標】		【当初値】 30年度	1,000人	【目標値】 元年度	1,500人	→	元年度 達成状況	1,072人
当該数値の把握手法	名勝旧金石城庭園に入園した外国人観光客の入園者数を合計。							
本事業で発信した国指定等文化財に来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】		【当初値】 30年度	—	【目標値】 元年度	50%	→	元年度 達成状況	0%
当該数値の把握手法	満足度調査については、入り込み客と対面での対応が可能な旧金石城庭園において対面アンケートを実施する予定であったが、令和元年8月以降、日韓関係の悪化により、外国人の入園者数が激減し、10月以降は0の状態となった。 その後、新型コロナウイルス感染症による入国制限なども加わり、外国人の対馬への入り込みが無い状況となり、満足度調査については、実施できなかった。							
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等								
※当該媒体の利用を促すための周知方法（プロモーション）などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オメガコードを用いた多言語解説アプリケーションは、iOS、Androidに対応させている。総ダウンロード数は97件。ダウンロードした端末の所属地域については、iOSのみ把握することができ、94%がアジア太平洋地域となっている。本市を訪問した外国人及び国内観光客によるダウンロードと分析している。(iOS:アジア太平洋地域63件、ヨーロッパ2件、北米2件、Android30件)</li> <li>・現地において掲示中のオメガコードを確認した後に、現地でアプリをダウンロードすることが出来るよう、音声解説用のオメガコードのみならず、ダウンロード用QRコードも現地掲示して、ダウンロードの促進に努めた。</li> <li>・本市を訪問した国内外観光客へ本アプリを周知するため、日本語・韓国語・英語の3か国語のチラシ、ポスター、パンフレットを作成し、市内各所に掲示、配布して、ダウンロードを促した。</li> </ul>								
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し								
※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っているのかを記載してください。								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日韓関係の悪化と、新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、対馬市への入り込み外国人数が激減した状況だったことから、アプリ使用後の満足度調査が実施出来ず、令和2年度に向けた改善点については、「周知拡大を図る」という点に留まっている。令和2年度に改めてアンケートを実施して、改善に向けた方策を検討していきたい(国内外観光客問わずに実施し、国内観光客の利用促進を図る予定)。</li> <li>・日本語を含んだ音声による多言語解説アプリという、本アプリの利点を最大限に生かすべく、外国人の入国、入り込みが見込みにくい状況にあっても、日本国内から観光客に対する周知を図るべく、引き続き、ポスター、チラシ等を用いた周知と、対馬市公式ホームページを使って情報の発信を図っていくこととしたい。</li> </ul>								
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその使途								
1	収入	なし				使途		

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。(なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。)】

## 平成30年度 文化財多言語解説整備事業 成果報告書

① 事業者名	一般財団法人 産業遺産国民会議	② 連携する事業者 (DMO等)						
③ 事業名称	「明治日本の産業革命遺産」スマートフォンアプリを活用した多言語案内整備事業							
④ 対象文化財	国指定史跡小菅修船場跡、国登録有形文化財150トンハンマーヘッド型起重機(三菱重工長崎造船所ジャイアント・カンチレバークレーン)、国指定史跡高島炭鉱跡高島北溪井坑跡、国指定史跡高島炭鉱跡端島炭鉱跡、国指定重要文化財旧グラバー住宅							
⑤ 先進コンテンツ ※コンテンツ内容とアクセスのためのトリガーがあれば記載。	長崎版ガイドマップにおけるAR機能搭載・MapQRにおける資産情報発信							
⑥ 制作言語	英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語							
⑦ 設置場所	アプリ上、大波止フェリーターミナル・長崎港フェリーターミナル、グラバー園内							
⑧ 設定した指標・目標と元年度の達成状況								
本事業で発信した国指定等文化財に 来訪した外国人観光客数【必須指標】		【当初値】 30年度	3000	【目標値】 元年度	3500	→	元年度 達成状況	137
当該数値の把握手法	日本国内において、ガイドアプリ(日本語以外の言語設定:英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語)をダウンロードした人数							
本事業で発信した国指定等文化財に 来訪した外国人観光客の満足度【必須指標】		【当初値】 30年度	—	【目標値】 元年度	80%	→	元年度 達成状況	37%
当該数値の把握手法	日本国内でアプリをダウンロードした外国人を満足度が高いと考え、外国人(日本語以外の言語設定を外国人とする)のトータルダウンロード数から、日本国内でダウンロードした人数の割合を満足度としてカウント							
⑨ 整備媒体の元年度利用状況等 ※当該媒体の利用を促すための周知方法(プロモーション)などとともに、これらを踏まえた外国人観光客の利用状況等を記載。②による連携事業者があれば、その連携・協力内容を記載。								
平成30年度から平成31年度の2年間で外国人による219件のスマートフォンアプリのダウンロードがあったが、令和元年度の1年間では137件と年々増加傾向にある。 明治日本の産業革命遺産は2015年に世界文化遺産に登録された遺産群であり、構成資産は8県11市にまたがって立地している。世界遺産価値を正しく発信するために、各資産の周遊を促す施策を進めていくことを目指している。 長崎エリアにおいて、既存のスマートフォンアプリを活用し、海外からの来訪者に対するの情報発信を強化していく。その一環として長崎の地域版ガイドマップにおいて、AR機能を拡充し、資産に対する情報を視覚的に案内することを目指した。また、スマートフォンアプリと連動した案内板を作成し、次世代型のQRコードであるMapQRを活用する形での多言語での情報発信のほか、案内板においてもAR機能をもたせ、直感的な理解を増進することを目指し、観光客の増加に努めた。								
⑩ ⑨を踏まえた令和元年度効果等の検証及び今後の見通し ※令和元年度事業実施により得られた効果等を検証し、今後の目標達成のため、どのような取組を行っていくのかを記載してください。								
現在スマートフォンアプリのダウンロード数は着々と増加傾向にあるが、ダウンロードをしている人の内訳は、現地に直接赴いてアプリの存在を知るケースか、そもそも「明治日本の産業革命遺産」に興味を持っているというケースが多く、市中での認知度が高いとは言えない状況である。今後の展望としては、全ての世代を網羅すべく、Twitter・Face Book・Instagramという3つのSNSを活用した積極的な情報発信を行い、「明治日本の産業革命遺産」に対する認知度の向上に努めるほか、既存の公式HPにおいても積極的な更新・情報発信を行っていく。また、GoogleAdなどのネットワーク広告を使用し、スマートフォンアプリ「明治日本の産業革命遺産パスポート」の新規ユーザー獲得を図る。これらが連携して機能することで、各地域に赴く観光客の増加を見込んでいる。								
⑩ 補助事業実施による令和元年度収入とその用途								
	収入	なし					用途	

※ スペースが足りない場合は、行の幅を変更しても差し支えありません。

【実際に整備媒体を観光客等が利用している様子がわかる写真を数枚、電子データによりご提出ください。(なお、本事業の成果の周知等のため、当庁ホームページ等へ掲載することがありますので、ご承知おきください。)]